

令和5年度 第2回 学校運営協議会

司会：教頭 記録：教務課長

1 日時・場所 令和5年10月24日(火) 午前9時30分から午前11時30分
沼津特別支援学校 伊豆田方分校 パソコン室

2 参加者 学校運営協議会委員
河野 真人、鈴木 志津子、岩田 聡志

伊豆田方分校
校長、教頭、主事、教務課長

3 校長挨拶

- ・過去の学校評議員会から現在の学校運営協議会に変わり、違いを肌で感じるレベルにまで変化してきている。
- ・伊豆田方分校は、学校運営協議会の力を借りながら学校を盛り上げていくビジョンをもち、夢を膨らませている。具体的な提案がなされるので、学校運営協議会委員の皆さんには御協力をお願いしたい。
- ・沼津特別支援学校本校では、学校運営協議会について教職員全体での理解が更に進むよう、学校運営協議会自らが教職員に働きかけることを考えており、多様な活動の可能性がある。
- ・愛鷹分校では、開校10周年を迎え、地域を巻き込んで盛り上げていこうとしている。学校運営協議会の委員に門池地区の連合自治会長が参加しており、コーディネーター的な役割で活躍されている。そのため、愛鷹分校がいかに地域に根差した学校になれるか、協議会としてどんな協力ができるかといった議論が活発に行われている。
- ・最近、学校運営協議会の持ち方についての研修が盛んになってきている。学校と学校運営協議会との関係を良好に保ちながら学校運営の発展について考えていきたい。そのために、委員の方々の思いを積極的に伺っていきたい。

4 日程説明 レジュメに沿って進行

5 授業参観① 田方農業高校との交流

「田方農業高校3IHRとの体育交流(保健体育)」

バスケットボール、バレーボール(体育館)、ボッチャ(格技場)、卓球(卓球場)

6 前期の取組の報告と反省(教頭)

- ・経営計画の4本の柱〈安全〉〈専門〉〈連携〉〈チーム〉に関して、前期学校自己評価アンケート(保護者・教員)の結果を踏まえて報告した。評価結果は実際の4段階から

「達成」「課題」に再分類して提示した。自由記述は要点を抜粋した。

【委員からの質問・意見】

河野氏 アンケート結果にはパーセンテージとして数字も示されているが、やはり自由記述の内容がポイントになってくる。「どうしてこの評価なのか」をしっかりと検証して行ってほしい。

7 協議 R6 年度夏に計画中の講演会とシンポジウムについて

仮テーマ「地域で輝く分校生徒を、地域と共に思い描く」

～ジャンルを越えた多機関協働による地域づくりや人づくりに向けて～

○新たに分校を知ってもらい、興味をもってもらうには…

○生徒や卒業生のニーズを把握し、学校運営に活かしていくには…

河野氏 木工班がゲートウェイ函南から受注した「大型のパエリア用しゃもじ」を納品したことを報道で知った。報道は地域や保護者に知ってもらう方法の1つであり影響力がある。

地域でのシンポジウムもよい方法。就労や生活などについて、卒業生や在校生がパネラーとして参加するのはどうか？職業生活を語って田方分校卒業生としての誇りを感じたり生活上の困難を参加者と共有したりできる。

身近で実践していることと言えば田方農業高校との共生・共育。同じ校舎内に高等学校と特別支援学校があるということは非常に大きなメリットである。

教頭 本協議のテーマの実現に迫るために構想を練っている。今日は、令和6年7～8月の実施を目指している研修会の案について紹介する。現時点では次のとおりである。委員からも御意見、御助言をいただきたい。

場 所：近隣のホール

参加者：伊豆地区の教育機関（特別支援学級、市町教育委員会）、
自立支援協議会、就業促進協議会、商工会などの関係者

【第1部】

内 容：講演会「地域福祉と地域づくりの実践より（仮）」

講 師：静岡大学 地域創造学環 内山智尋 氏（内定）

【第2部】

内 容：シンポジウム（伊豆田方分校に関わる人が、それぞれの立場からの実践紹介と意見交換）

発表者：伊豆田方分校職員、卒業生、在校生、学校運営協議会委員

岩田氏 パネルディスカッションはどんなテーマがよいか？成功事例を発表するようなポジティブな話題のみで構成されることが多いが、今回は敢えて問題や課題といったネガティブな話題も取り上げてみてはどうか？「どうやって課題解決していこう？」ということ、関係する人たちで考察し、共有する場になって

ほしい。特別支援学校の生徒においては、社会に出る前に将来的なビジョンをもって教育することが必要である。社会人になっても問題や課題は引き継がれるため、在校生や卒業生といった当事者だけでなく、一番身近な保護者の影響は非常に大きい。保護者も参加して子どもと一緒に学べる機会になるとよい。

鈴木氏 私の勤務する施設では、年配の利用者さんが多数を占めている。社会的な支援が乏しかった時代に養護学校を卒業したその世代の方たちは、現在、親子関係さえわからない方もいる。若いうちに支援体制を作ること、福祉や制度に関して親への情報提供や指導をすることが大切である。親自身に「親が面倒を見ればよい」と考えている方は多いが、頼っていい環境を知っておくべきである。一人一人が可能性を感じ、自己実現を夢見てほしいと思っている。

岩田氏 保護者の中には、子の将来のイメージをもつことができていない方もいる。生活や就労については支援体制を組むが、それだけで十分だろうか？例えば、恋愛、結婚、妊娠…への理解や支援は？どんな応援者がいるのか？福祉就労を経していない人は、それを知らずに困難に陥る場合がある。卒業後に一度は福祉事業所と関わりをもち、応援者を増やしておいた方がよい。

教頭 講演会やシンポジウムへの、保護者の参加を検討する。

校長 学校運営協議会の委員に、行政職の方を加えることも考えられる。
田農生 OB はどうか。高校時代に分校との共同学習や交流学習を経験しているので知識や理解がある。

河野氏 鈴木氏 いろいろな立場の人が関わることはよい。賛同する。

教頭 新しいこと、思いつかなかったことを委員から聞くことができてよかった。今日の協議を経て得られた情報については後日整理した後、報告させていただく。

8 授業参観② 田方農業高校との交流

「伊豆田方分校木工班と田方農業高校ライフデザイン科セラピーコース3年生との共同学習（作業学習）」

9 諸連絡（次回、学校運営協議会の日程など）

第3回 9月4日～11月30日の期間内に委員1人1回2時間程度
授業参観と情報交換（現在実施期間中）

第4回 令和6年2月5日（月）
学校経営評価と協議「次年度に向けた学校運営協議会の参画について」

閉会